

小崎

K O Z A K I

柳田國男ゆかりの地



地区の概要

小崎地区は人口約 220 人で、川の口・小崎・狩底・入子蒔・雨木・白杵又・竹の枝尾日添・竹の枝尾日当の8集落で構成されています。
神楽や山法師踊りといった伝統芸能が現存しており、お盆の時期には地区主催の夏祭りが行われています。2020年3月に小崎小学校が閉校し、現在は小学校跡地を活用した人口1%戦略に取り組んでいます。



地区の未来像

あなたも「椎葉のお父さん・お母さん」を見つけられる！小崎地区



作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「小崎みらい会議」を2回行いました。その後、役員会や神楽保存会、山法師踊り保存会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。



プロジェクト

01 小崎夏物語

概要

毎年8月に公民館主体で夏祭りを行っているが、小崎地区をより盛り上げるため花火の打ち上げ、特産品コンテストの実施など内容の充実を図りたい。

目的

子どもたちに思い出をつくり、帰りたいと思える地域にしたい。

実施体制



プロジェクト

02 魅せる小崎プロジェクト

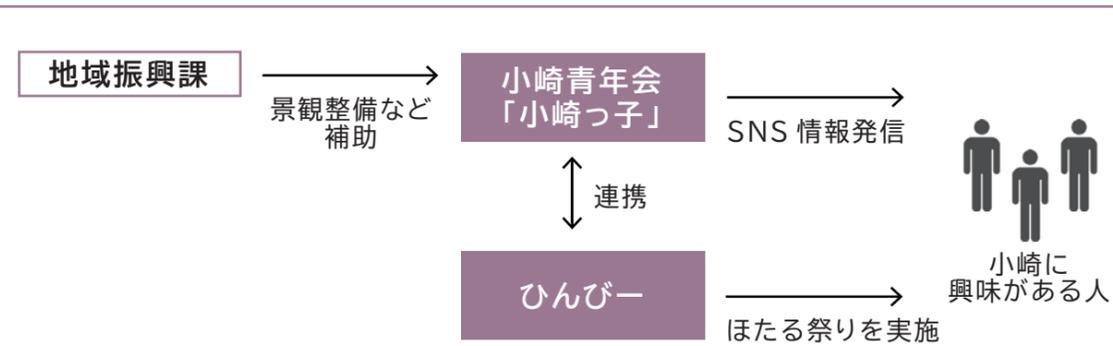
概要

- (1) 地域の景観整備や看板づくり、ホタルの環境整備。
- (2) 地域の様子を SNS で外で発信。
- (3) 小崎に興味がある人（移住希望者など）を巻き込んだ共同作業。

目的

四季を通じて美しい地域づくりをすることで、住民や訪れる人に楽しんでもらうため。

実施体制



03 守ろう！こざカルチャー 伝統食編

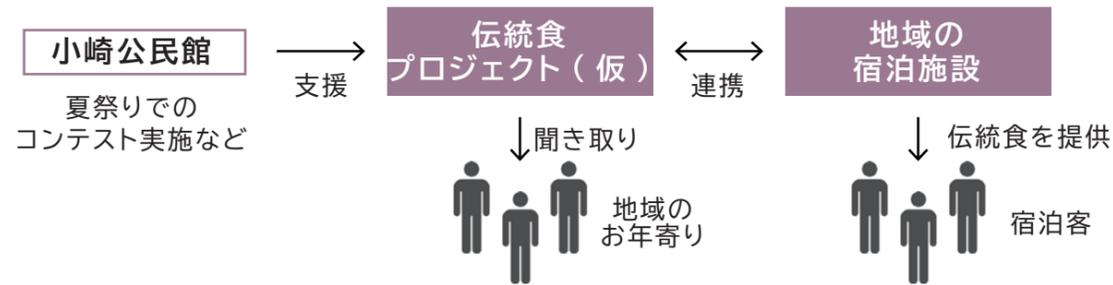
概要

- (1) 提供 夏祭りや冠婚葬祭などの行事、農家民泊の食事として伝統食を提供する。
- (2) 伝承 地域のお年寄りなどから、伝統食を教わる機会をつくる。
- (3) 記録 上記の活動をレシピ本や動画にまとめる。

目的

地域の文化とも密接に関わっているふるさとの味を伝承することで、小崎らしさを後世につなげていきたい。

実施体制



04 守ろう！こざカルチャー 伝統芸能編

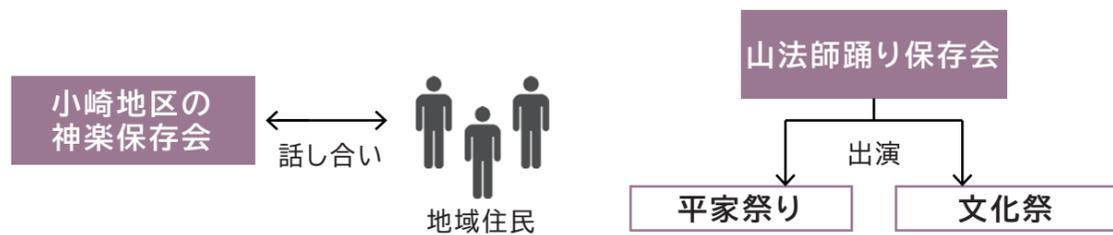
概要

- 神楽
 - (1) 地区全体で神楽について話し合う場を設ける
 - (2) 将来を見据えて神楽のやり方を工夫していく
- 山法師踊り
 - (1) 地区の文化祭など、実施の機会を確保する
 - (2) 参加意欲のある若者を積極的に受け入れる

目的

人口減少の中でも神楽や山法師踊りが継承できるように工夫していきたい。

実施体制



地域住民の声

椎葉 智代美 (しいば ちよみ)



小崎に生まれ育ちました。神楽が大好きで、地元の神社にも思い入れがあり、幼い頃から聞いてきた太鼓と笛の音を聞くと「やっぱり自分の地区が一番いいなあ」としみじみ感じます。

小崎地区にとって、令和2年に小崎小学校が閉校したことはとてもショックな出来事でした。例え児童数が少なくなっても、学校はあるものだろうとどこかで信じていたので、子どもの声がする小学校がなくなり、心の拠り所をなくしてしまった様にも思えたのです。

しかし今、その小学校跡地を再利用するための話し合いが行われています。特に、小崎に住む数少ない若者たちや移住者の方など、若い世代が一生懸命になって小崎のこれからの未来を考えている姿を見るととても嬉しく、頼もしい思いで、私もできる限り支えたいという気持ちにさせてくれます。

私の活動としては、小崎に伝わる郷土料理の伝統を絶やさないために、様々なレシピを本にまとめる活動を始めようと思っています。子どもたちや後の世代に何かを残してやりたいという思いで、私もできることに取り組みたいです。

山法師踊りをやっていた父親の姿を幼い頃から見ていて、自然と憧れるようになりました。中学生の頃に山法師踊りを習い始め、今も保存会の活動を続けています。

今では、村外に出ている自分の子どもたちも、平家まつりなどの披露の際には帰省して一緒に参加してくれます。しかし、ここ2年ほどはコロナ禍とあってイベントの開催も難しく、皆で集まって練習や披露をすることができない状況が続いています。そんな中でも、地域の大切な伝統芸能を継承していくために、また私たち自身が楽しむためにも積極的な活動を続けていきたいと思っています。

これまでも小崎地区では、住民の有志で劇団を立ち上げて地域を盛り上げたり、ほたる祭りを企画したりと、皆で集まってにぎやかに楽しむことが好きな人が多いのではないかと思います。

そんな私たちの明るさをこれからも絶やさず、今回話し合ったプロジェクトを進めていきたいです。

那須 博章 (なす ひろあき)

